

公益財団法人
滋賀県産業支援プラザ理事長
田口 宇一郎氏

▶ interviewer

頭取 大道 良夫

「がんばる企業」への多面的な支援で 滋賀に元気と夢を増やしたい。

県内企業の99%以上を占める中小企業を手厚く、幅広い支援メニューでサポート。
滋賀を元気で夢で満たそうと、さまざまな支援活動に取り組む滋賀県産業支援プラザ。「がんばる企業」という主役を支える名脇役に徹し続ける。



公益財団法人滋賀県産業支援プラザ 理事長
田口 宇一郎(たぐち・ういちろう)氏

1942年生まれ。1962年滋賀県庁へ入庁。琵琶湖博物館副館長、琵琶湖環境部長などを歴任。07年12月から11年7月まで滋賀県副知事を務める。12年4月滋賀県産業支援プラザ理事長に就任。

県内の中小企業を対象に きめ細かな支援メニューでサポート

大道●「がんばる企業を応援します」をキャッチフレーズに、県内の中小企業への広範囲な支援サービスに取り組んでおられる滋賀県産業支援プラザさん。人材交流等を通じて、当行とも深いご縁があります。

田口■県内産業のさらなる振興を図るため、中小企業振興関係の4団体が1999年に統合し、県内中小企業の中核的支援機関として発足しました。そ

れから17年、中小企業の経営基盤強化や販路開拓、新技術の開発や創業支援など、中小企業のさまざまなニーズにお応えできるように多様な支援事業を行ってきました。

大道●産業支援プラザさんの多様な企業支援サービスは、当行としても大変心強いです。県内全ての中小企業を対象にされているところが、滋賀県の外郭団体ならではの特色ですね。

田口■支援内容によっては一部経費をご負担いただく場合もありますが、原則として無料でご支援させていただきます。

ます。プラザだからこそと自負する特色の一つが、頭取が先ほどおっしゃった多様な支援メニューです。創業期から発展期、安定期に至るまで、企業の成長ステージに対応したきめ細かな支援メニューを整え、シームレスな支援を行っています。これを支えているのが、プラザがこれまで築いてきた県内外の企業や大学等との充実したネットワークです。私どもの職員は企業を支援するための専門的なスキルを

持っていますが、より高度な専門性が求められる場合には、経営や販路開拓をはじめ、技術開発、IT(情報技術)化や省エネ診断のスペシャリストを派遣する制度を設けています。

大道●国や自治体等の支援制度や補助金に関する情報を絶えず収集され、タイムリーに企業へ伝える情報発信機能も、産業支援プラザさんの大きな特長ですね。

田口■情報を発信するとともに、プラザが各種補助金等の受け皿となつて、優れた事業シーズを持つていながら、資金や経験不足のために孵化できない企業に活用していただいています。

地域資源活用の挑戦を促す 「しが新事業応援ファンド」

大道●これまで本誌でも、国等の支援メニューを使って新事業の孵化に成功された企業の事例をいくつかご紹介してきました。産業支援プラザさんでも地域資源を活用して新商品やサービスの開発を支援する「しが新事業応援ファンド助成金」を設けておられ、当行も地元金融機関とともに協力しています。

田口■2008年からスタートし、15年までの8年間で252件の事業を採択しました。そのうち60%以上の企業で、

開発した商品を販売にまでこぎつけることができました。長浜のアグリバイオプロジェクト「機能的野菜の栽培」や、「湖東麻織物の技術を家庭用床マットに活用する挑戦」「ふなずしを健康栄養食品にする試み」など、地域資源をうまく活用する取り組みが多かったこともうれしいことです。

大道●ものづくり企業ばかりでなく、酪農や水産業、製茶等の一次産業の採択が多いのも興味深いですね。産業支援プラザさんのコーディネート力がうまく発揮されたものと思っています。

田口■「農林水産業の6次産業化」は私どもの重要テーマの一つです。滋賀県も「ココクールマザーレイク・セレクション」を設けるなど、地域資源のブランド発信に注力していますし、私どももできる限りの協力をしていくつもりです。一方、サービス業についても、観光資源を活用したビジネスの動き等も活気づいており、その助成にも力を入れています。

企業独自で解決できない課題に さまざまな支援活動で対応

大道●企業支援の内容を詳しくお伺いしましょう。中小企業の経営基盤強化については、専門家の派遣や販路開拓、商



「コラボしが21」2階のエントランスで、田口宇一郎理事長と大道頭取

経営理念

私たちは、
顧客とのコミュニケーションを大切にし、
そのニーズの的確な把握のもと、
自らの資源と関係機関等との連携を最大限に活かし、
質の高いサービスを迅速かつ着実に提供することにより、
活力ある滋賀県産業の発展に貢献します。

法人概要

公益財団法人 滋賀県産業支援プラザ

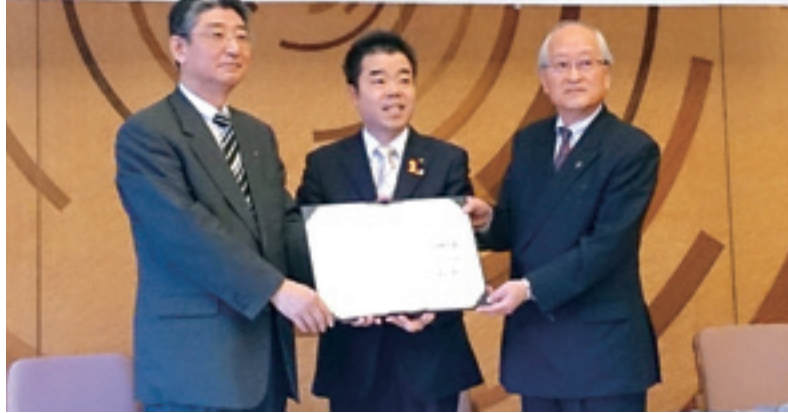
- 設立/1999年
- 公益財団法人化/2011年
- 職員数/60名
- 事業内容/経営革新支援、販路開拓支援、国際・貿易ビジネス支援、起業・創業支援、産学官金連携支援、技術開発支援
- 所在地/大津市打出浜2-1(コラボしが21)
- URL/http://www.shigaplaza.or.jp/

沿革

1999年4月	財団法人滋賀県産業支援プラザ設立 中核的支援機関に認定(新事業創 出支援法に基づく)
2000年5月	滋賀県中小企業支援センターに指定 (中小企業支援法に基づく)
2004年8月	「コラボしが21」会館に移転 「コラボしが21インキュベーション」 の設置
2006年4月	「滋賀県立草津SOHOビジネスオ フィス」の指定管理を県から受託 「滋賀県立テクノファクトリー」の指 定管理を県から受託
2011年4月	公益財団法人に移行
2013年4月	認定支援機関として国から認定(中 小企業経営力強化支援法に基づく)
2014年6月	「滋賀県よろず支援拠点」を開設



海外展開支援に関する協定締結式



滋賀県、損害保険会社とともに「海外展開支援に関する協定」を締結



「しが医工連携ものづくりネットワーク」参画機関による展示

談会等のサポートなど、実に多面的な支援を実施されておられますね。

田口■中小企業に持続的な安定経営を図っていただくため、経営革新や人材育成、情報化推進などで、さまざまな悩みや困り事にお応えしています。また、国の「よろず支援拠点」事業を受託し、解決できないさまざまな課題にきめ細かに対応しております。こうした取り組みにより、プラザ全体で年間5千件を超える相談を受けています。

大道●産業支援プラザさんに相談される企業は、創業間もない企業から中堅企業に至るまで幅広いですね。販路開拓や取引先・提携先とのマッチングまで支援してもらえるのは実に心強いでしょう。

田口■取引先のおっせんや全国規模での見本市、展示会への出展もサポートしています。私どもでブースを借りて出展を呼びかける場合もあり、最近では、岐阜県と三重県の産業支援団体と共同で「ものづくり商談会」を開催しました。

大道●貿易相談窓口を設置され、ジェトロ(日本貿易振興機構)や海外拠点を持つ損害保険会社と連携し、海外進出のための情報提供を行うなど、海外事業をサポートする国際ビジネス支援も心強いですね。さらに、産業支援プラザさ

んといえば、やはり起業や創業を目指す方々への手厚い支援ですね。早くから全力を注いでこられました。

手厚い起業・創業支援から 数多くの「夢」が孵化する

田口■「開業資金を借りたい」「創業を準備するためにオフィスを借りたい」「起業に関するセミナーに参加したい」「大学と共同研究をしたい」といった、起業を目指す方々の多様なニーズをワンストップでサポートする豊富なメニューを用意しています。創業を目指す方には、県内各地で開催するビジネスカフェ「あきんどひろば」でのセミナーや交流会で情報収集やネットワークづくり。創業準備の段階では大津の「コラボしが21インキュベーション創業準備オフィス」に入居いただき、インキュベーション・マネージャーと一緒に、なって事業計画や事業戦略の策定を行います。創業後は、「コラボしが21インキュベーション創業オフィス」や草津、米原の「SOHOビジネスオフィス」に入居いただき、創業者として一本立ちできるよう支援を行っています。

大道●驚異的な電源装置の開発でトップクラスの技術力を持つ草津の研究開発型企業も、産業支援プラザさんの創



草津SOHOビジネスオフィス

業支援によつて孵化し、大きく成長されました。他にも会社員から有料老人ホームのコンサルタントに転身された方など、多くの起業家の夢を、陰となり日なたとなつて支えてこられた取り組みが、滋賀をどれだけ元気にしたことでしょう。

田口■自分らしい生き方を追求したい。社会に役立ちたい。そのような思いで起業をお考えの方が多いと思います。プラザにご相談に来ていただければ、最初の一步が踏み出せるかもしれません。私どもの支援の中身をさらに情報発信して、プラザをもっと多くの方々に知っていただけるよう、努めなければと思っています。

います。

大道●当行でも、ニュービジネスを目指す起業家をサポートする「サタデー起業塾」を2000年から続けていますが、開講当初は会社員を辞めての創業や学生起業家が多数を占めていました。最近では、実績のある企業の次期経営者の方の参加が増え、本業と並ぶ「新たな柱」としての新事業を模索されています。

田口■プラザでの創業に関する相談は最近、女性が増えています。やる気の旺盛な方が多く、女性が輝く社会の実現を目指して支援していきたいです。

県内企業の魅力と強みを伝える 情報発信の支援にも取り組む

大道●産業支援プラザさんの取り組みでは、医工連携によるものづくり支援に

注目しています。

田口■医療分野への進出に意欲的な企業等で構成する「しが医工連携ものづくりネットワーク」を組織して、医療分野とものづくりの連携を促すために、ずつと力を注いできました。2013年に滋賀県が国から「滋賀健康創生特区」に指定されたことで医工連携の取り組みに弾みがつき、微量の採血で複数の検査が可能な血液分析装置をはじめ、製品化が間近なプロジェクトもあります。

大道●支援する立場から、滋賀県の中小企業にどんな期待をされていますか？

田口■県内のものでづくり企業の中にはニッチ分野でトップクラスの技術力を持つっている企業も少なくありません。その強みを生かして、環境やエネル

ギー、健康・医療関連など今後の成長が期待できる分野へ進出されることも重要な選択肢だと思っています。優れた製品が作れても、品質の高いサービスを持つていても、まだまだブランド化や情報発信が得意でない企業も多いようです。「付加価値をどう創造して、どう発信していくか」、そのようなところまで私どもがサポートしていく時代になったと感じています。

大道●滋賀県には元気な中小企業が多いのですが、控えめな県民性のためか、確かにPRや自己主張は不得手ですね。県内企業の技術的な強みや商品の魅力をいかに発信していくかは、滋賀県経済の今後の大きな課題です。

田口■そこで取り組み始めたのが、滋賀と関わりがある映像や音楽、デザインなどのコンテンツクリエイターの発掘です。

滋賀県に居住しながら京阪神で活躍しているクリエイターは案外多いのです。そういった方々にご協力をいただき、滋賀でクリエイティブ産業やクリエイターの育成を県と連携しながら取り組んでいきたいと考えています。

大道●県内企業の99%以上を占める中小企業にさらに活躍していただくためにも、産業支援プラザさんへ寄せる期待は高まっています。

田口■当プラザ単独でできることには限りがあります。企業・大学、行政、金融機関を橋渡しするコーディネーター機能をさらに高め、産学官金連携の相乗効果の中から、質の高い支援を提供できるよう努めてまいります。

大道●当行もできる限りのお力添えをさせていただきます。本日はありがとうございました。